

歴史の舞台と四季の彩道

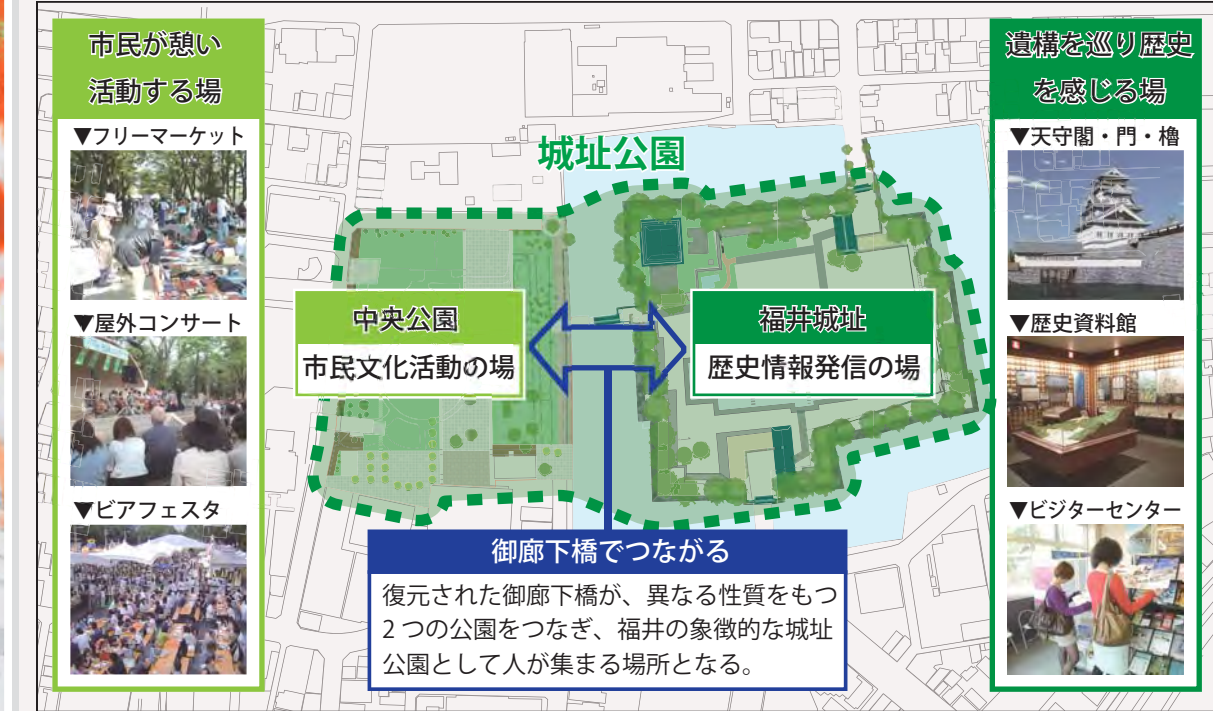
～新たな城下町をつくる～



集 あつまる 市民活動と歴史発信の舞台となる城址公園をつくる

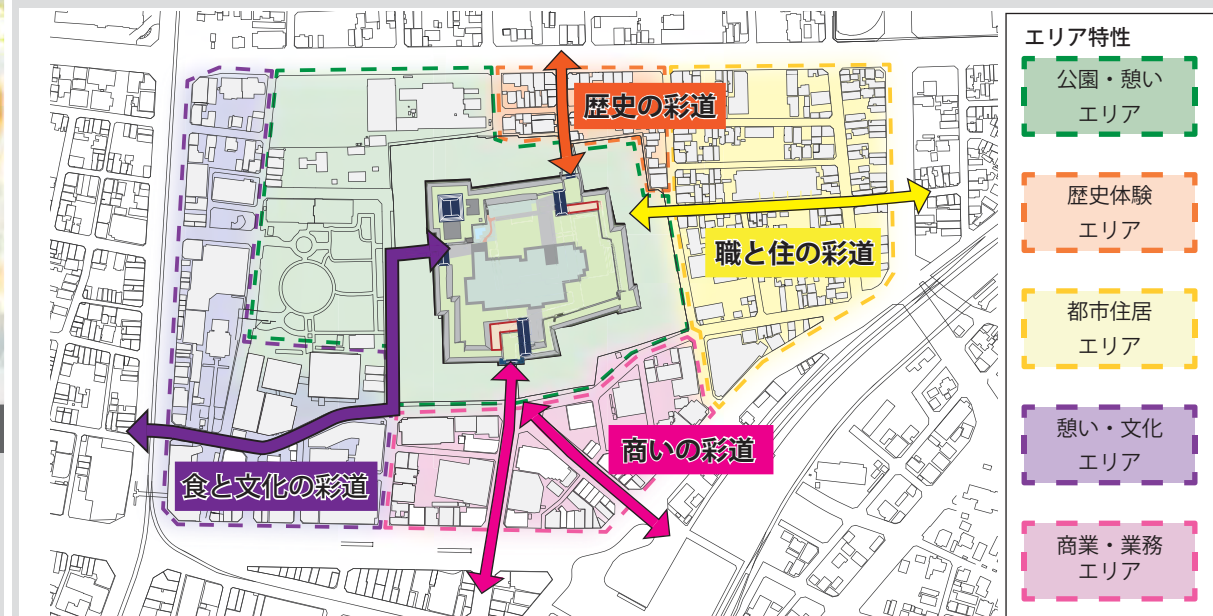
中央公園を市民の憩いの広場として整備し、城址を観光客向けの情報発信の場として整備する。
中央公園は、現在提示されている基本計画に則り、フリーマーケットやライブ、アートイベントといった**市民活動**の可能なスペースを設け、**創造的、文化的活動の情報発信**を行っていく場とする。**福井城址**は、県庁、警察署、議会の移転後に、段階的に天守閣や櫓等を復元し、**歴史情報発信拠点**として整備を行う。

福井城址内には城址に関する史料や、市の歴史等を閲覧できる**歴史博物館の別館や休憩所**を併設し、短期計画の中で中央公園内に計画されている**ビジターセンター**を移転することで観光客向けの歴史情報発信拠点として機能を集約する。これら**2つの公園**がヒューマンスケールであり歴史的外観を持つ**御廊下橋**で繋がる事により、**市民活動発信の場と歴史的情報発信の場を接続**し、憩いと創造的活動、そして歴史が緩やかに繋がっていく、**県都の顔となる城址公園**として整備する。



賑 にぎわう 地区ごとの魅力を再生する4つの彩道をつくる

城址公園周辺の魅力を向上していく為に、**城址を核として四方に延びる彩道**を整備する。**4つの彩道**は、「**歴史の彩道**」「**食と文化の彩道**」「**職と住の彩道**」「**商いの彩道**」として地区ごとの魅力を活かしたテーマを設定し、それぞれの彩道代的に再生する。



巡 めぐる 歴史をつなぐ四季彩の散歩道をつくる

福井城址周辺に点在する養浩館庭園や特徴的な地区を回遊する**歴史のみにち、福井市の特徴的な植物が彩る四季彩の散歩道**をつなげ、福井の歴史や福井らしい風景を楽しめる**街路空間**を整備する。**四季彩の散歩道**は、「春：桜」「夏：紫陽花」「秋：紅葉」「冬：水仙」からなり、季節の変化を体感しながら歴史と共生するまちへと育てるものである。



城址を核として、歴史・自然・食文化・暮らしを、特産品と四季彩で繋ぐ

本計画は城址を核としたエリア内外のネットワークを、福井固有の特産品と四季彩によって形成していくことで、「**福井の持つ歴史的な魅力を四季の移りとともに感じられる**」情緒あふれる街並みを、**福井の新たな城下町らしさ**として提案するものである。



対象地区の現状 都市のリニューアルと緑豊かで歴史情緒あふれるまち並みの整備

対象地区は、福井の歴史を語るうえで最も重要な**歴史資源**である**城址**があり、かつての城下町といった名残を感じることが出来る。また周辺には**足羽山**、**足羽川**といった福井を代表する自然環境がある。しかし対象敷地においては駅前といった好立地一方で、コインパーキング等の**低未利用地**や**老朽化した建物**が目立ち、市民のための憩いの場や市民文化活動を行うための空間の整備といった課題を抱えている。都市のリニューアルに合わせて、**緑豊かな憩いの場の整備や市民文化活動のための空間**、そして**福井の豊かな歴史を歩きながらに感じられるような、新たなまちの姿**が必要となる。

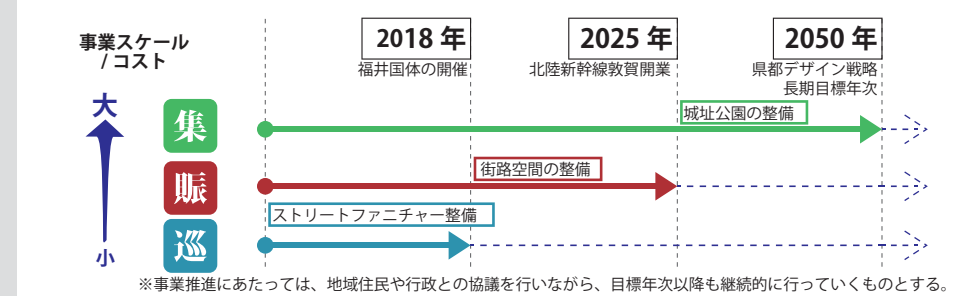


まちづくりの方針

1 2050年を見据える

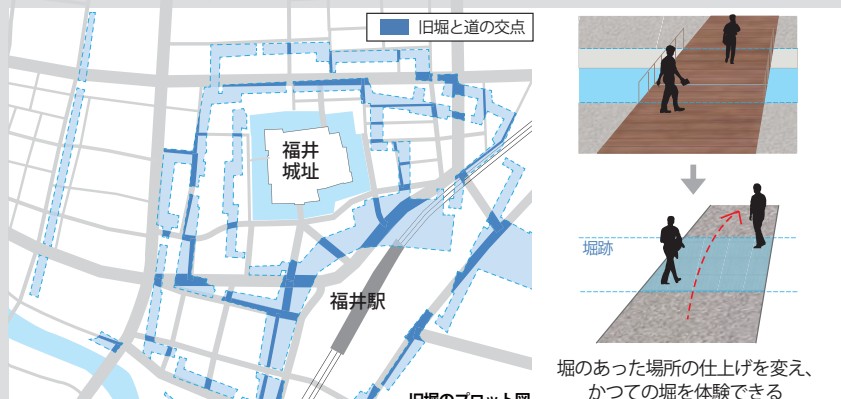
本計画は県都デザイン戦略に則り、**短期・中期・長期の3つの目標年次**に沿って提案を行う。長期目標年次として設定している、2050年段階の福井ビジョンを実現する為に、**実現可能性の高いスケールの小さい提案から計画をスタート**していく。

初期の空間的にも時間的にもコストの小さい提案は、県民・市民が県都への誇りや愛着を醸成するための場をつくる提案である。順次、スケールを大きくするに従って新たな文化、創造性を育む場と、それらの市民活動を都市に発信する場をつくっていく。



3 城址の都市構造を手掛かりとする

かつての福井城址は、**輪郭式平城**といった都市構造を有する**個性的な城下町**であった。多数の堀を「渡る」といった空間体験は、福井城址を特徴づけるものである。まちづくりを進める上で、**市民がかつての堀の記憶を体感できる道やサイン**整備を行っていく。



2 歴史資源のネットワークを強める

対象地区に隣接するエリアには**養浩館庭園**や**北の庄城址**、**浜町**等の豊かな**歴史資源**が各所に点在している。城址を核として、これら各所に点在している**歴史資源のつながり**を強化する、**魅力的な街路空間**を整備することにより、隣接するエリアと対象地区との**回遊性を強化**し、人々の行き交う賑わいを創出していく。



4 四季の彩りに着目する

福井の四季折々の美しさを彩る植物に着目する。例えば、春の足羽川に咲く美しい桜や、夏の足羽山に咲く紫陽花である。こうした**福井の特徴的な植物**を用いて、**四季に応じたまち並みの美しさ**を演出する。



5 特産品を活用する

整備を行う上で、福井の特産品である**笏谷石**や**越前和紙**、**越前指物**といった素材や城址の**石垣の布積**といった**デザイン手法**を用いる。それらをストリートファニチャー等の**整備に積極的に活用**することで、**統一感のあるまち**なみと、**まちへの誇りや愛着を醸成するための通り / 場**を創出する。

